

しのばず自然観察会より 2023-2 2023.02.05



ハンノキの開花

ボート池北西端の岸辺にある気になる木ですが、雄花序（花房）に柄があるので、ハンノキのようです。植樹木でしょうか？ 1月下旬、雄花序の花が開き始めました。近縁のオオバヤシャブシと葉を比べると、鋸歯（ギザギザ）が浅く、緑色のまま落葉します。

不忍池ではほかに、動物園池の旧オオワシの島にハンノキの大きい個体があります。そこから種子が飛んだ可能性もあります。

なお、左写真の黒いマツカサは前年のもの、雄花序の付け根にあるのは雌花序です（赤矢印の先）。

2023年2月の活動 不忍池定点観察+COD チェック



1月に採水器操作に慣れた会員が病欠のため延期になった水質（COD）の簡易測定を予定しています。

集 合：2023年2月19日（日）

午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり（野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り） 今回は雨天中止

持 物：筆記用具、双眼鏡、雨具、マスク、
（敷物、昼食、飲み物）

解散は午後1時半頃ボート池畔または藤棚
コロナ&寒さ対策も！ 参加費不要

3月の活動は3月19日(日)予定

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方
1975年創立 電話03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

2022年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ

2023年1月の活動

小川千恵子

前日まで雨の予報だった1月15日(日)はどんよりと雲がたれこめ、午後3時頃から雨という予報に変わった寒い日でした。

前日までの体調が悪かった小川潔に「明日は無理じゃない?」と言ったのですが、「イヤ、行く」と言い、夜にはCODチェックの道具一式を玄関に用意していました。しかし当日朝には初めて「行けない」と言い、千恵子ひとりの参加になりました。「池の水を採ってきてくれれば」と潔は言いましたが、最悪の場合、寒くて雨、参加者2人となると、私の体調からみてもとても無理と思いましたので、水質検査は来月に延期してもらいました。結果的に9名の参加。?年振りのBさん、今年初の会だからと少し遅れて参加したHさんとHさん、雨も降らず、これならなごやかに水質検査ができたのに・・・残念。

確認した鳥の種類:オナガガモ、キンクロハジロ、カルガモ、(朝、ホシハジロ)、オオバン、カイツブリ(鳴き声だけ)、ユリカモメ、セグロカモメ、カワウ、コサギ3羽、アオサギ3羽、シジュウカラ、カワセミ、ドバト、スズメ

○朝、集合前

不忍通りのバス停からボート池に着き、池の北側の方に向かいました。水鳥が少ない!キンクロハジロの雄の羽の白黒がくっきりして美しくなり、雌とは全く別と主張しているようでした。12月のカウントの時はこれ程きれいなコントラストにはなっておらず、雌雄迷いました。ホシハジロの雌が2羽仲良く一緒に泳いでいました。それにしても鳥が少ない!ユリカモメは多い。セグロカモメはいつもの場所に1羽見られました。まだボートが池に出していないせいか、ボート池の南側の方にもオナガガモやキンクロハジロが見られました。

集合地から一なるべく時系列で書きます

○ハスは11月の活動の時の写真(しのばず自然観察会より2022-12, 2022.12.01)の垂下っていた葉がほとんど落ちて、茎のように見える葉柄だけが残って、茶色の棒が池一面に林立する形になりました。その中のところどころに実が棒の先っぽにぶら下がっているのが目立っていました。

○ガマの穂

しのばず自然観察会より2022-8, 2022.08.01の7月の活動報告に載っている写真にあるガマですが、この横にアシもあり、共に薄茶色の綿毛になって、今にもくずれ落ちてしまいそうな形になっていました。

○アオサギが3羽いました。

2羽が同時に同方向に連れだって飛んで行く様は大きくて、羽ばたきもゆっくりゆったりとしていて思わず見とれてしまいました。

○カワセミ

カワセミも何度か見ました。たぶん同じ雄。蓮池では枝先に止まっても少しずると飛び立ち、次のところに止まります。そしてまた短時間で飛び立って次へ行きます。それが、弁天堂入り口を入れてすぐ右側、動物園池の方で見た時は、枝先からスーツと枝の下の方に降り、枝の低い所に止まり、じーっとして動かなくなりました。たぶん休息を始め、眠ってしまったのでしょうか。こんな姿を見るのは初めてでした。

○いつものコースで歩くつもりが、弁天堂脇の藤棚から西へ抜け、南に行くところをつい西へ行ってしまい、ボート池と蓮池の間は通りませんでした。藤棚から出て歩き始めると園内放送がありました。「上野公園管理事務所からのお知らせです。カモヤカモメにパンくず等のエサをやらないで下さい。エサやりによる様々な弊害がでています。」11時20分。そのあと11時57分にもう一度「鳥獣保護区です」という言葉を入れて同様の放送がありました。

○弁天堂を出て蓮池と動物園池を分ける小さな橋を渡る手前の動物園池寄りのところからいつも動物園池の方を見ます。カワウの島が見られます。カワウのお宿のギボク（擬木）と常緑樹は真っ白です。「動物園で白く塗ったんだよ」というSさんのことばを一瞬信じかけてしまったMさん。「エエッ?!」と声があがり、大笑い。（今度、白いクリスマスツリーを見たら不忍池のギボクを思い出そう!）

○ハンノキか？ヤシャブシか

ボート池の北西の浮き橋を西に抜けたところにある木はハンノキかヤシャブシかと11月に話題になりました。11月の観察会のあと、Sさんは公園事務所まで行って、訊ねたところ「わからない」と言われたと電話がありました。1月の観察会でも話題になり、潔が区別ができたようだが、私はどっちだったか忘れてしまったので次回にということにさせてもらいました。が、答えはP1参照。

○ユリカモメ

ボート池のユリカモメが2羽、まるでけんかをしているかのように空を飛びどんどん円を描いて上昇して行き、もう1羽が付き添うかのように飛んで行きました。これを見る前にも上空高くにいる3羽の鳥が円を描くように上昇しているのを見つけ、Sさんに「猛禽類？」ときくと「わからない」との返事。たぶんこれもユリカモメだったのだらうと思います。

○鐘

いつも解散前に集まるテラス近くに来ると、ちょうど12時。時の鐘がゴーンと大きく鳴り始めました。3つの捨て鐘のあとしばらく静かに。そしてまた鳴り始めたので指を折って数えてみました。するとアレッ？13回だ！隣にいたTさんに話すとなを向いてクスクス笑い。私の数えまちがいか？鐘つきさんのサービスか？

今年は都市型公園発足から満150年

日本に公園制度ができたのが明治6年（1873年）、今年で満150年になります。当時の上野では、文部省の病院（現在の東大医学部附属病院に相当）建設計画が実施段階に入ったところでした。明治5年11月27日、正院（政府）は文部省の要求を承認したのですが、詳細は文部省と上野の管理者である東京府との調整に委ねられました。ところが着工寸前となった翌年1月15日、正院達（太政官布達）第十六号が出され、公園設立が宣言されました。布達には、候補地として金龍山浅草寺境内、東叡山寛永寺境内などが例示されていました。

明治5年12月3日が新暦の明治6年1月1日となったので、文部省の計画は許可後20日です。この前後、東京府（大久保一翁知事：旧幕府の官僚出身）は寛永寺への補償などを盾に病院建設に抵抗していました。太政官布達が出るのを待つための時間稼ぎだったのかも知れません。

ところで東京都は現在、上野公園の開園日を10月19日にしています。明治6年10月19日は東京府の公園経営方針（選定場所と公園取扱心得）への批判が太政大臣三條實美から出された日で、これに先立つ5月24日に東京府は、正院に上野の公園指定と経営（町触案と公園取扱心得を添付）への稟議を求めました。公園史研究の大家である前島康彦氏（故人）は、屈辱的な10月19日ではなく、上野公園の経営方針詳細が明文化されて国に提出された5月24日を上野公園開園日とすべきと主張していました。太政官布達第16号は、各府県に公園候補地を上申せよというだけで、許可手続きはなく、各府県が詳細を決めるようになっていました。ただ、上野公園だけは国策による日本を代表する公園との位置づけで、政府と東京府との間には経営方針（財源問題：国は一般税から、府は受益業者から）の相違があり、実質的に公園となったあとも対外的開園セレモニーは先送りされていました。

上野公園の開園セレモニーは、明治9年5月8日に開業式が、翌9日には上野公園への天皇・皇后初行幸があり、外交官、各国公使も参加しました。西郷隆盛が朝敵になって西南戦争に敗れた翌年でした。明治新政府の施政能力が安定したタイミングだったのでしょう。これらの日から干支が2周りした1996年5月、東京都は開園式から120周年という記念行事を寛永寺で行い、しのばず自然観察会代表の小川潔も招待されました。この前後の1年間、しのばず自然観察会も参加する「不忍池を愛する会」主催の文化イベント「上野公園そのまま博物館」が、東京都上野公園緑の相談所の協力で繰り広げられました。（本稿の詳細は、現在編集中の「しのばず自然観察会50年史—私たちの上野公園史」（仮称）で紹介予定です。乞うご期待！）

正院達第拾六号
三府ヲ始、人民輻湊ノ池ニシテ、古来ノ勝区名人ノ旧跡等は迄群集遊観ノ場所
或ハ公有地ノ類、總テ社地境内除地
ハ永ク万人倍楽ノ地トシ、公園ト可被相定ニ付、府県ニ於テ右地所ヲ択シ、其景況巨細取調図面相添大蔵省ヘ伺出事
明治六年一月十五日
府県へ
東京ニ於テハ金龍山浅草寺東叡山寛永寺境内ノ類、京都ニ於テハ八坂社
従前高外除地ニ属セル分
太政官

前島康彦（1989）東京公園史話より
*原本(副本)による文字の異同あり